

みちのものがたり

約30万人の障害者犠牲に

世界最高峰のベルリン・フイルハーモニー管弦楽団の本拠地。建物に面したティアガルテン通りは夕刻、演奏会に向かう着飾った人たちがぎわっていた。

第2次大戦中、この通りの4番地にある秘密作戦の司令部が置かれた。通りの名から「T4作戦」と呼ばれる。

月ごからの「ラインハルト作戦」につながっていく。薄れゆく意識の中、この小さな部屋で、どれほどの恐怖と絶望を感じたのか。窓枠に鉄格子がみえる。「シャワーを浴びよう」。医師からそう言われ、みな歓喜しながら部屋に入ったろう。だが、シャワーヘッドから水が出てくることはない。代わりに医師は一酸化炭素の元栓を開け、致死量が充満した。

「経済的価値なし」差別助長

「……治療の見込みのない患者に、人道的見地から慈悲の死を与える……」

ナチスの最高指導者ヒトラーによる非公式の命令文が残る。ドイツがポーランドに侵攻した1939年9月1日付。社会を「身体的、精神的に優秀な者」だけで構成すべきだとする優生思想に基づき、精神障害を抱えた人々を殺害する「安楽死」計画の始まりだった。

作戦は40年1月から実行され、カトリック教会の反対などで中止されるまでのわずか1年8カ月、6カ所のガス室で7万人以上が殺害された。作戦の中止後も、飢餓や薬物投与などの方法で「安楽死」計画は続き、犠牲者は約30万人にもなった。

ナチスは作戦で「劣等分子」をいかに選別し、輸送し、効率的に殺害するかを「予行演習」した。そして、ユダヤ人絶滅を目指し、約200万人が殺害された41年10

月ごろからの「ラインハルト作戦」につながっていく。薄れゆく意識の中、この小さな部屋で、どれほどの恐怖と絶望を感じたのか。窓枠に鉄格子がみえる。「シャワーを浴びよう」。医師からそう言われ、みな歓喜しながら部屋に入ったろう。だが、シャワーヘッドから水が出てくることはない。代わりに医師は一酸化炭素の元栓を開け、致死量が充満した。

「アンナはナチスの犠牲者」東西ドイツ統一から4年後の94年、旧東独に住む大叔父エーリッヒさん（故人）を訪ねると、打ち明けられた。精神疾患は遺伝するといわれ、アンナさんの話は親戚間でタブーとなっていた。エーリッヒさんは姉のルーシーさんに「アンナは姉のルーシーさんに言われないよう、固く口止め

院で死したとされるアンナさんの足跡を追って、2007年夏にたどり着いた。「アンナはナチスの犠牲者」東西ドイツ統一から4年後の94年、旧東独に住む大叔父エーリッヒさん（故人）を訪ねると、打ち明けられた。精神疾患は遺伝するといわれ、アンナさんの話は親戚間でタブーとなっていた。エーリッヒさんは姉のルーシーさんに「アンナは姉のルーシーさんに言われないよう、固く口止め

もう一つのガス室への道（ドイツ）

独東部の古都ヒルナの丘にたたずむゾネンシュタイン城。地下の小部屋（12平方メートル）で、40年6月から1年足らずの間に1万4751人の命が奪われた。遺体は隣の部屋で金網を抜き去られ、研究用の臓器を取り出された。遺骸はさらに隣の部屋で焼却され、城の裏手に無造作に廃棄された。煙突から煙が上がり始める。住民は悪臭に耐えきれず窓を閉めたという。マニユアル化されたその作業は土日を除くほぼ毎日、昼々と行われ、遺灰は高さ7メートルにもなった。

シャナリストのダニエラ・マーティンさん(50)は小部屋に足を踏み入れた瞬間、曾祖母アンナさんの魂がいるように感じられ、涙が止まらなくなった。独東部の精神病科病

院で死したとされるアンナさんの足跡を追って、2007年夏にたどり着いた。「アンナはナチスの犠牲者」東西ドイツ統一から4年後の94年、旧東独に住む大叔父エーリッヒさん（故人）を訪ねると、打ち明けられた。精神疾患は遺伝するといわれ、アンナさんの話は親戚間でタブーとなっていた。エーリッヒさんは姉のルーシーさんに「アンナは姉のルーシーさんに言われないよう、固く口止め

月に政権を奪取すると、欧米で流行していた優生思想に基づく民族衛生や人種衛生を強力に推し進める。半年後には、遺伝病子孫予防法（強制断種法）を制定した。統合失調症などの精神疾患を「遺伝的欠陥」とし、本人や家族の同意なく、約40万人に断種をした。

さらに、T4作戦で「働く能力のない者」「治る見込みのない者」を「安楽死」の対象とした。内務省は39年10月、病院や治療施設に個人の登録カードを送付し、医師や施設長が病名や入院歴など情報を記入した。鑑定人3人、鑑定責任者がサインする

「わたしで最後にして ナチスの障害者虐殺と優生思想」（合同出版）は、日本障害者協議会の藤井克徳代表が独西部のガス室を訪れた体験やT4作戦の全体像をわかりやすくまとめた。「ナチスもう一つの大罪『安楽死』とドイツ精神医学」（人文書院）は、精神科医の小俣和一郎さんが膨大な資料を元に作戦を検証した。

文・吉田美智子 写真・峯岸進治



医師が死亡診断書を偽造するために、最後の診察を行った脱衣場。右手はガス室に入るドアがあったが、いまはコンクリートで固められている。独東部ヒルナ

「わたしで最後にして ナチスの障害者虐殺と優生思想」（合同出版）は、日本障害者協議会の藤井克徳代表が独西部のガス室を訪れた体験やT4作戦の全体像をわかりやすくまとめた。「ナチスもう一つの大罪『安楽死』とドイツ精神医学」（人文書院）は、精神科医の小俣和一郎さんが膨大な資料を元に作戦を検証した。



「エルベ川のフィレンツェ」と呼ばれた古都ドレスデンは、ヒルナから鉄道で約20分。第2次大戦中、連合軍の爆撃によりがれきの山と化した。旧市街はほぼ元の姿に復元されつつある。ザクセン王国の栄華を伝えるツヴィンガー宮殿やワグナーの「タンホイザー」が初演されたゼンパー歌

劇場、アウグスト強王の行列をマイセン磁器2万5千枚を使って描いた壁画「君主の行列」（長さ100メートル、高さ8メートル）が並ぶ街は中世に迷い込んだよう。豪華絢爛なバロック様式の聖母教会＝写真＝は資金不足などで長らくがれきのまま放置されていたが、10万個以上の破片を集め、05年に再建された。曜日、時間帯により無料見学可能。

「エルベ川のフィレンツェ」と呼ばれた古都ドレスデンは、ヒルナから鉄道で約20分。第2次大戦中、連合軍の爆撃によりがれきの山と化した。旧市街はほぼ元の姿に復元されつつある。ザクセン王国の栄華を伝えるツヴィンガー宮殿やワグナーの「タンホイザー」が初演されたゼンパー歌

に残した絵画を収蔵したプリンツホルン・コレクション（改装中）がある。「安楽死」の犠牲になったウィルヘルム・ウェルナーさん（1898～1940）は独南部の貧しい家庭に生まれ、10歳から児童施設や治療施設で過ごした。30代で断種を強制され、その時の衝撃や恐怖を44枚の絵＝写真2枚、いずれも同コレクション提供＝に残して

独南部ハイデルベルク大医学部に精神障害者から1850年から1920年代はじめ



東独の航空機の製造工場として利用された。一帯の情報は軍事機密とされたため、本格的な調査、保存活動が始まったのは91年以降。記念館は00年にオープンした。「旧西独では壊されたり、改装されたりした施設も多く、これほど当時のまま残っているガス室は珍しい」とポリス・ボーム館長。障害者や慰霊碑や作戦に関する屋外展示がある。

ゾネンシュタイン城は18世紀から19世紀はじめまで、欧州最先端の精神病科病院だった。第2次大戦中は軍の施設の一部として使われ、戦後から東西ドイツ統一までは、旧